

第1章 与条件の整理

(1) 沖縄こどもの国の概要

1) 設置目的

「沖縄こどもの国」の設置・運営の基本となる沖縄未来ゾーン条例の第1条「目的及び設置」において、沖縄こどもの国の設置目的は、「こどもたちの夢と希望を育み、人をつくり、環境をつくり、沖縄の未来をつくる人材の育成を目的として、沖縄こども未来ゾーンを設置する。」と示されている。

【設置目的】

「こどもたちの夢と希望を育み、人をつくり、環境をつくり、沖縄の未来をつくる人材の育成」

2) 施設概要

「沖縄こどもの国」の公園諸元及び主要施設の概要を以下に整理する。

表：沖縄こどもの国公園諸元

項目	内容
公園種別	総合公園
敷地面積	163,720 m ² (内供用済面積 135,700 m ²)
供用開始	1966年
管理主体	沖縄市 指定管理者：公益財団法人 沖縄こどもの国
営業時間	4月～9月：9：30～18：00 (入場 17：00 まで) 10月～3月：9：30～17：30 (入場 16：30 まで) 休園日：毎週火曜日 (火曜日が祝日の時は翌日休園) ：年末年始 (12月30日～1月1日)
入園料	【一般】 大人：500円 中学生・高校生：200円 4歳以上～小学生：100円 3歳以下：無料 【団体(20名以上)】 大人：400円 中学生・高校生：150円 4歳以上～小学生：80円 3歳以下：無料 【年間パスポート】 大人：2,000円、高校生以下：1,000円 ベビーカーレンタル：100円
入館料 ワンダーミュージアム	大人：200円 4歳以上～高校生：100円 3歳以下：無料
主要施設	動物園 ワンダーミュージアム ふるさと園 チルドレンズセンター 乗物コーナー バードウォッチングデッキ 等
主要 年間イベント	沖縄こどもの国フェスティバル：GWの特別イベント サタZOOナイト：夏休み期間中の毎週土曜日 クリスマスファンタジー：12月23日～12月28日 (2015年実績) 沖縄こどもの国花まつり：2月27日～3月21日 (2016年実績)

●動物園

- ・多彩な動物達を身近に見ることで、生命の尊さやすばらしさを実感できる動物園。
- ・哺乳類、鳥類、魚類、爬虫類等約 160 種類の動物を展示。



写真：ゾウを間近で見る園児達

表：展示動物の種数、点数(平成 27 年 3 月現在)

分類	種数	点数
哺乳類	44	237
鳥類	29	99
爬虫類	67	625
魚類	5	29
両生類	11	134
昆虫類	1	4
計	157	1,128

- ・園内は南国らしく、一年を通じて花や植物を見ることができ、豊かな自然環境の中で、野鳥や小動物（昆虫・両生類）毎年やってくる渡り鳥も見ることができる。
- ・園内には乗り物コーナーがあり、人気の機関車「テキサス号」、「メリーゴーランド」等の遊び場が用意されている。

●ワンダーミュージアム

- ・「理解と創造は驚きに始まる」をコンセプトに、こどもたち自身が自ら不思議や驚きを見つけ、科学力（無生物を対象）の向上に資することを目的として設置されている施設である。
- ・実際に触れて体験することができるハンズオン展示と、こどもたちの知恵や感性を刺激するワークショップの体験が可能である。



写真：ワンダーミュージアム内部の展示

●ふるさと園

- ・沖縄の気候風土に適するように造られた明治末期から大正にかけての農家のたたずまいを復元設置。
- ・沖縄の気候風土により育まれた先人たちの文化遺産を通して、地域の風俗、習慣、歴史を学んでもらうことを目的に設置されている。



写真：ふるさと園に移築、復元された建物

●チルドレンズセンター

- ・こども達の豊かな成長を育むことを応援するため、無料で利用できるスペースを提供。
- ・様々なプログラムや講座の開催、企画展示、絵本・図書スペース等として利用されている。
- ・沖縄県の環境保全活動の拠点として、地域における環境保全活動を支援することを目的に「沖縄県地域環境センター」が設置されており、出前講座、自然観察会、セミナー等の実施を支援している。



写真：チルドレンズセンターの図書スペース

3) 計画対象地

本計画の対象地は、中央公園を含む既存区域約 16ha(内供用部約 14ha)に加え、南側の約 13 ha を拡張区域とし、計画を進めるものとする。

なお、計画地の北側は、市道「中央公園線」に面しており、沖縄市の中心市街地と沖縄こどもの国を結ぶ市道「こどもの国線」が接続している。また、計画地南側は、北中城村との境界を通る市道「コザ給食センター線」に面している。



図：計画対象地

(2) 上位計画の整理

1) 現状の課題

上位計画である「沖縄こどもの国施設整備基本構想策定業務報告書」(以下、基本構想)で整理された本施設が抱える課題、重視事項は以下の通りである。

①沖縄こどもの国全体の課題

1. 観光施設として県内連携を視野に入れた施設の魅力づけ

- 沖縄県内の交通の要所、中北部の自然観光エリアへの入口としてのあり方を考える必要がある。
- 類似施設とは異なり、かつ相乗効果をもたらす魅力づけにより、数ある観光施設の中から選ばれる、または立ち寄りたくなる施設を目指す必要がある。

2. 市内の回遊性を生み出す魅力づけ

- 市内の街中観光の魅力(飲食、芸能、音楽)と異なる魅力づけ、昼と夜の楽しみづくり等による、市全体としての観光利用者層や滞在時間拡大、多様な楽しみの提供が求められる。
- 市内の回遊性を生み出す様々な仕組みづくりが必要である。

3. 園内の有機的な連携による機能強化

- 園内には、科学、文化、レクリエーション等の多様な既存施設が存在するが、有機的な連携が図られていない。
- ワンダーミュージアムは、無生物系の自然科学の人材育成施設となっている。
- ふるさと園は、地域文化の継承を目的とした人材育成施設となっている。
- このことを踏まえ、これらを包含するようなコンセプトにより、園内施設の連携を強化し、人材育成機能のさらなる強化を図ることが期待される。

②ハード面の課題

1. 園内自然環境に関すること

- 熱帯、亜熱帯性気候により育まれた特徴的な植生や広大な水面を有するものの動物展示には活用されていない。
- 園内の地形は、平坦地と斜面地に区分され、さらにそれぞれ樹林地と草地（空地含む）から構成されており、これらの環境特性を活かしていく必要がある。

2. 動線に関すること

- ユニバーサルデザインの配慮に乏しい箇所が多くある。
- 園路システムが複雑（主園路、副園路、細園路等の明確な区分がない）で、観覧順路が不明確な状況にある。
- さらに、管理動線と観覧動線が兼用されている区間が多くあり、来園者の安全性確保の面で問題がある。
- エントランスが2ヶ所あり（今後増える可能性もあり）、観覧順路に配慮する必要がある。

3. 演出に関すること

- エントランスから動物園が認識されない状況にあり、何らかの対策が必要である。
- 獣舎等のバックヤード施設が観覧空間に面して設置されており、景観阻害要因となっている。

4. 快適性に関すること

- 強い日差しや突然の降雨への対策が必要である。
- ソフト面と連携しつつ、飲食・物販施設等の便益施設の適正配置に配慮する必要がある。
- 駐車場については、計画地拡張と合わせて、今後適正規模の検討が必要である。

5. 飼育種に関すること

- 飼育動物を俯瞰すると生息地域に偏りがあり、生息地域毎でのゾーン区分が困難である。
- 独特な進化をとげ、多くの貴重種が存在する琉球弧の生き物を「沖縄らしさ」の象徴の一つとしてさらに焦点をあてることが期待される。
- 動物種の増大ニーズを踏まえ、水面や広大な平坦地等動物園区域の拡張に合わせた新規動物種の導入が求められる。

③ソフト面の課題

1. 施設コンセプトの再確認

- ミッションの再確認
- 「沖縄らしさ」を表現する方法
- 「沖縄こどもの国」における「環境教育＝人材育成」のあり方
- 幅広い世代が楽しめる施設のあり方 等

2. 魅力的な世界観の表現

- 新「沖縄こどもの国」のコンセプトを伝えるデザイン
- 全てにわたるデザインの方針とルールづくり(ソフト・ハードへの反映)
- ルールの持続的な維持管理体制づくり
- 全スタッフにおける世界観、デザインの考え方の共有 等

3. 魅力的な動線づくり

- 「沖縄こどもの国」の魅力を伝える来園者動線
- 来園者動線に則った飲食・物販機能の配置
- 来園者動線と管理者動線の区別と世界観の切り分け 等

4. 多言語対応の推進

- 主要アクセス拠点(空港・港等)から「沖縄こどもの国」までの動線上のサイン、情報案内の多言語対応
- 園内サイン、情報案内等の多言語対応
- 展示解説の多言語対応
- 人的対応における多言語対応能力の向上 等

5. コンセプトを伝える展示の構築

- 動物の展示を補完し、園のコンセプトを伝える展示
- ニーズの高い沖縄の歴史・文化・伝統等を紹介する展示
- こどもから大人まで楽しめる展示
- スタッフの創意工夫が活かせる展示 等

6. 来園者が満足できる魅力的な空間づくり

- 雨、日差しの心配のない空間
- 女性、こども、高齢者が居心地よく過ごせる空間(個室内にベビーシートを設置する男女トイレ、こども用便座、清潔で快適な授乳・おむつ交換・着替えスペース、レストランのキッズスペース、適切な場所に配置される椅子・ベンチ等)
- 動物と緑陰とカフェ(飲食+休憩)が融合して楽しめる空間 等

7. 魅力的な飲食・物販機能

- 入ってみたくなる店舗づくり
- 園の気持ちを伝える販促の推進（手書き案内、レイアウトの工夫等）
- オリジナリティのある商品・メニュー展開 等

8. 沖縄市内、周辺観光地と連携した魅力づくり

- 沖縄市の観光資源を活かした園のプログラム・イベント企画
- 沖縄市内と「沖縄こどもの国」を結ぶ魅力的なルートづくり（アクセスの整備、散策路整備、サイン整備等）
- 周辺観光地とのパッケージ化と旅行会社とのタイアップ 等

9. 全国・世界に向けての積極的な広報

- 新たなコンセプト、施設イメージ、活動内容等の多言語広報ツール整備
- 旅行代理店、旅行専門ポータルサイト、ブロガー等へのアプローチ
- マスメディア・クチコミ等の特性を活かしたタイムリーな情報発信 等

10. 魅力的な活動を支える人づくり

- “日本一ユニークな”動物園にふさわしいおもてなしの構築と教育
- 動物園とワンダーミュージアム、チルドレンズセンターがコラボレーションしやすい仕組み（ソフト・ハード）づくり 等

④利用者及び利用ニーズ特性

戦略的な再整備展開の方向性を導き出すため、「沖縄こどもの国」の現状の利用特性及び潜在的な利用ニーズを把握する。以下にその内容を示す。

■現況の来園者数及び構成

◇来園者数： 425,567人（平成26年度データより）

表：来園者内訳

区分		来園者数(人)	割合(有料のみ)
有料	大人	180,959	54.0(%)
	中人(中学・高校生)	9,984	2.7(%)
	小人(4歳～小学生)	96,938	27.1(%)
	団体	59,593	16.2(%)
無料		57,526	
総計		425,567	

◇来訪経緯と認知度の傾向（出典：「沖縄こどもの国施設整備基本構想策定業務報告書」）

県内：非常に高い（よく知られており、利用されている）

県外：非常に低い（知られておらず、利用されていない）

◇有力利用者層（出典：「沖縄こどもの国施設整備基本構想策定業務報告書」）

県内：40代女性/30代女性/子供連れ/沖縄市内

■現況のイベント等（出典：「沖縄こどもの国施設整備基本構想策定業務報告書」）

◇主要年間イベント

沖縄こどもの国フェスティバル：ゴールデンウィークの特別イベント

サタ ZOO ナイト：夏休み期間中の毎週土曜日

クリスマスファンタジー：12月23日～12月28日（平成27年実績）

沖縄こどもの国花まつり：2月21日～3月15日（平成27年実績）

■利用ニーズ（出典：「沖縄こどもの国施設整備基本構想策定業務報告書」）

◇「展示」に関するキーワード

表：「沖縄こどもの国」で見たい展示(特徴的な主な意見)

居住エリア	分類	意見の特徴
県内	動物	地域の希少種
		動物の進化に関する展示
		動物の生態を知る体験
		地域に生息していない動物
		話題の動物
	沖縄	沖縄の風土に関する展示
		沖縄の歴史に関する展示
		沖縄の芸能に関する展示
		沖縄の伝統・文化を知る体験
	科学	科学に関する展示
県外	動物	沖縄の動物に関する展示
		地域の動植物に関する展示
		動物の生態を知る体験
		地域に生息していない動物
		動物の進化に関する展示
	沖縄	沖縄のこどもに関する展示
		沖縄の歴史に関する展示
		沖縄の風土に関する展示
		沖縄の文化を知る体験
	自然	地域の自然を知る体験
		日本の自然環境に関する展示
		海の生き物に関する展示
	動物園	動物園の活動を知る体験

県内外ともに「動物」に関する意見とともに「沖縄」に関する展示への期待がみられる。内容は、「動物」「自然」にとどまらず、「(沖縄の) 歴史や風土、文化」等であり、『沖縄を知るための場所』としての期待がみられる。

◇「イベント」に関するキーワード

表：「沖縄こどもの国」で体験したいイベント(特徴的な主な意見)

居住エリア	分類	意見の特徴
県内	動物	動物の生態を知るイベント
		動物に親しむためのイベント
	沖縄	沖縄の文化を知るイベント
		地域の自然を知るイベント
		沖縄の芸能を体験するイベント
	動物園	動物園の活動を知るイベント
	沖縄以外	沖縄ではできない体験イベント
		沖縄以外の文化を知るイベント
科学	科学体験イベント	
親子	親子で楽しむイベント	
イベント	謎解きイベント	
	イルミネーション	
県外	動物	動物の生態を知るイベント
	自然	植物の生態を知るイベント
	沖縄	地域の動物を知るイベント
		地域の自然を知るイベント
		沖縄の芸能を体験するイベント
		沖縄の文化を知るイベント
	動物園	動物園の活動を知るイベント
食	食に関するイベント	

県内外ともに「動物」に関する意見とともに「自然」、「沖縄」に関する意見が多い。県内に関しては「沖縄ではできない」体験への期待、県内外ともに、「文化」や「芸能」等への体験への期待がみられる。

◇「飲食・物販」に関するキーワード

表：「沖縄こどもの国」のパーラーやギフトショップへの希望(特徴的な主な意見)

居住エリア	分類	意見の特徴
県内	施設	飲食施設の充実
		特徴のある飲食施設
		利便性への配慮
	商品展開の充実	品揃えを充実してほしい
		ギフト商品の充実
	特色・特性	地域の特性を活かしたメニュー
		特色のあるギフト商品
	接遇	接遇技術の向上
	満足度	満足度の高いメニュー
利用者への配慮	利用者に配慮したメニュー	
大人	大人がくつろげる店舗	
センス	センスのよさ	
県外	大人	大人も満足するメニュー
		高価なギフト商品も揃えてほしい
		大人も満足するギフト商品
	特色・特性	地域の特性を活かしたメニュー
		特色のあるギフト商品
	利用者への配慮	利用者に配慮したメニュー
	商品展開の充実	デザートメニューの充実
	お土産	お土産として配りやすいギフト商品
ボリューム	ボリュームのあるメニュー	
安価	安価なメニューの充実	
施設	飲食施設の充実	

県内では、「施設」や「商品展開」の充実に関する意見が目立つ。県外に関しては、「大人」、「地域の特色」に関する意見が目立つ。観光施設としての来園により、「こどもも大人も楽しみたい」という意向によると考えられる。

これらをふまえ、利用者ニーズに対応するための重視事項として、下記を位置づけることとする。

親子で楽しむ、県内からのリピート利用につながる魅力づくり

県内の観光地から選ばれる、「ここでしか体験できない」魅力づくり

「沖縄らしさ」「日本らしさ」が感じられる魅力づくり、立ち寄り利用への対応

人材育成施設、学習施設として積極的に活用される魅力づくり

2) 基本構想における基本的な方向性

前述の課題を踏まえ、基本構想では、日本一ユニークな動物園になるため、他園にはない、本園ならではの“沖縄らしい環境”“沖縄らしい思想”を活かすこと、人材育成施設として、教育のきっかけとなる『なぜ?』の視点を養う”サイエンス”の要素を活用しつつ、人材育成とグローバルな視点に立った交流を生み出す場となることを重要視し、「沖縄こどもの国」の再整備における基本的な方向性を提案している。

【いのちの横のつながり】

動植物のつながり『生物多様性』を知る場

人と自然のつながり『自然共生』を知る場

【いのちの縦のつながり】

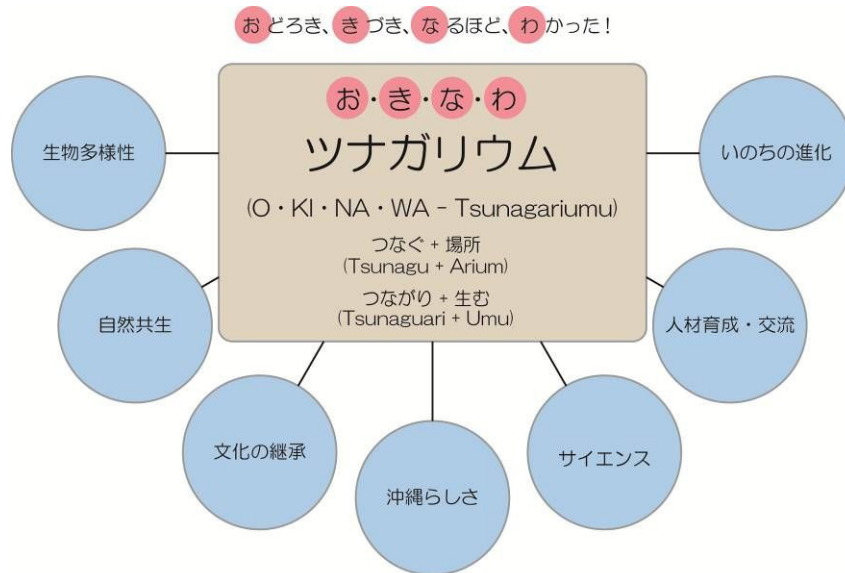
太古から重ねられてきた『いのちの進化』を知り未来の地球を考える場

沖縄の『文化の継承』により未来の環境共生を考える場

【知識のつながり】

サイエンス(科学)の目を養う場

また、これらを踏まえ、いのちの現在のつながりと時間的なつながりを知り、考え、知識を行動へと発展させることができるこども達を生み出す場とするための施設像として、「ツナガリウム」という概念図を提示している。



※Ariumとは、ラテン語で名詞の末尾につけて「～に関する場所」という意味をつくる言葉
 例えば・・・
 planet (惑星)+ arium (～に関する場所)=planetarium (プラネタリウム)
 aqua (水)+ arium (～に関する場所、物)=aquarium (水族館)

図：基本構想における基本的な方向性概念図